

＜ 今日の説教のポイント マタイによる福音書 26 章 47～56 節 ＞
聖書は何を伝えようとしているのか？ 気になる言葉に注目。

①「友よ、しようとしていることをするがよい」(50)

私たちは、なぜユダがイエス様を裏切ったのかということに関心を持ちます。しかし、聖書は、イエス様が語られた幾つかの気になる言葉を通して、私たちの関心を別のものに向けさせようとしています。「友よ、しようとしていることをするがよい」(50)、この言葉から、イエス様がすでにユダの企みを知っておられ、それから逃げようとはされず、むしろイエス様の逮捕は何かもっと大きなことに関係しているのではないかと思わされます。

②「しかしそれでは、必ずこうなると書かれている聖書の言葉がどうして実現されよう」(54)

これはイエス様の逮捕を防ごうとした弟子をさえぎられて言われたイエス様の言葉です。「必ずこうなると書かれている聖書の言葉」とは、聖書のどこの箇所でしょうか？「わたしの僕は、多くの人が正しい者とされるために彼らの罪を自ら負った」(イザヤ書 53:11-12) や、「彼らは、彼ら自らが刺し貫いた者であるわたしを見つめ、独り子を失ったように嘆き、初子の死を悲しむように悲しむ」(ゼカリヤ書 12:10) の言葉です。これらの旧約聖書の箇所を読むと、なぜユダが裏切ったのかよりも、もっと大事な深い問題が考えられていることを知らされます。すなわち、愚かな私たち全ての者の罪の赦しの問題です！ この後にイエス様が言われた、「このすべてのことが起こったのは、預言者たちの書いたことが実現するためである」(56)という言葉もそれに一致しますし、「このとき、弟子たちは皆、イエス様を見捨てて逃げてしまった」(56)には、自分の姿を見るようでぞっとします。しかし、そんな私たちの罪が赦されるために、イエス様は十字架の死に向かって行って下さったのです！

③「剣を取る者は皆、剣で滅びる」(52)

文脈を無視してこれだけ挙げて非武装主義を主張することはできません(ルカ 22:36 参照)。聖書は、その文脈で何を言おうとされているのかを丁寧に読み解き、理解していく作業が大事です。